

## 第9回流山市全市コミュニティ推進委員会会議録要旨

- 1 日 時 平成23年4月21日(木) 午後2時
- 2 場 所 ケアセンター4階第3研修室
- 3 出席委員 相川 征治 委員長、狼 正久 副委員長  
梅谷 秀治 委員、河村 栄夫 委員  
染野 智司 委員、野路 丞一 委員  
小泉 尚子 委員、高市 正高 委員  
倉田 繁夫 委員
- 4 欠席委員 関谷 昇 委員
- 5 事務局職員 兼子 潤一 コミュニティ課長  
高橋 とし子 コミュニティ課長補佐  
須郷 和彦 コミュニティ係長
- 6 協議事項 (1) 全市コミュニティ推進委員会の今後の進め方  
について
- 7 協議状況 開 会 午後 2時00分  
閉 会 午後 4時50分

## I. 新しい委員の紹介（事務局より）

### 1. 新しい委員2名を紹介。

4月1日付けで社会福祉協議会事務局長着任 高市正高氏  
公募委員（3名応募があり1名辞退）として選出 小泉尚子氏

### 2. 各委員の自己紹介

## II. モデル地区の状況報告

### 1. 新川まちづくり協議会について（担当：染野委員・狼委員）

- ・ 4月8日に設立総会開催。来賓で相川委員長出席。
- ・ 会則、役員、事業計画、予算が正式に決定した。会則については、設立準備の段階であっさりしたものになっているが、だんだんと成長させる。
- ・ 狼委員と染野委員が運営委員として入っている。
- ・ 構成団体は現在6団体であり、染野委員は江戸川台西地区を、狼委員は、美原地区を地盤にして運営に入っている。
- ・ 事業計画は当初と変わらず、1つずつやっていく。
- ・ 予算案は54万円で行う。本来は構成団体からの会費収入があるべきところだがスタート時点ではなしで始め、将来はそれを見据えている。4万円の寄付も見通しはある。
- ・ 「新川まちづくり通信」NO.1を5月1日発行し、月1回発行。（今号は自己紹介とプロジェクトのお誘い。）

\* 予定発行部数は500部。各自治会と諸団体へ配布。  
自治会は400部で回覧とする。

- ・ プロジェクトは、5月・6月で行うものなので早速2つを掲載している。協議会のPRを兼ねた催しものとなっている。
- ・ 新川地区の自治会、団体の気持ちを1つにして、協議会の席に誘うことが目標なので、このプロジェクトは、まちづくり協議会の始動としてのプロジェクトである。
- ・ まちづくり協議会を大きくするプロジェクトは次号から紹

介していくが、まずは第一歩が踏み出された。

- ・ 月 1 回の役員会で協議したことが「まちづくり通信」につながっていく。
- ・ 行事の説明会でいろいろな団体に呼びかけていって、意見交換ができたなら良いと考えている。
- ・ 田植え体験でもち米を植えて、餅つき大会と有機的に結び付けようという考えも出てきている。
- ・ 団地としては協議会に入っていないが、餅つきに堪能なグループがあり、グループとして行事に参加していく。そういったことを積み上げていくのではないか。(相川委員長)

## 2. 流山小学校区について（担当：梅谷委員・河村委員）

- ・ まちづくり協議会の名称が流山中央まちづくり協議会だったが、流山小学校区へのこだわりが出ており、まだ未定である。
- ・ 事務局 4 名は打ち合わせを重ねており、連休明けに総会開催の予定。(震災の影響で福祉会館が使用できなかったため)
- ・ 当初の予算は 80 万円を予定していたが、寄付は想定せずモデル事業の予算 50 万円とする。事業としては、小学校区としてやるべき事業の中で優先順位をつけて予算内で行う。
- ・ 来年度の取り組みは 50 万円にとらわれずに提案したいという要望がでてきている。
- ・ 新川が N P O 中心なのに対し、流山は自治会連合中心であり、今後の地道な活動が展開されることが期待できる。
- ・ 担当の梅谷委員・河村委員は役員には入っていないが、信頼ベースで相談役という関係になっている。

### 検討内容

- ・ 予算がシフトしたということは、お金に縛り付けられて動きが制約されることがないように、担当の方は導いていただきたい。
- ・ 委員会として、協議会の予算面を含めてどう関わっていくの

か。担当として、細目までチェックするのか、どこまですることが妥当なのか。(梅谷委員)

- ・モデルとしてスタートして、残りの13地域から注目を受ける立場であるので、時間の経過によってやることが変わってしまうということは少々心配である。中間発表もあるので、予算がどうというよりは、間に合わなかったということを経験軸で意識していただきたい。
- ・流山小学校区では、来年度は50万円にとらわれずに提案したいという要望があるが、そうした要望に対し、委員会としてどうしていくのかという議論は必要である。

## 2 地区における成果とは

- ・新川地域まちづくり協議会：  
22自治会の半分近くが席について、地域のことを話し合う場が1回でも設けられたら、今年は成功といえる。
- ・流山小学校区：  
小学校区の自治会の参加がどれだけできるのかということと、事務局が考えている長期的にまちづくりについて、自分たちはこういうふうに取り組んでいくのだということが結果として出てくれば1つの成果といえる。

## Ⅲ. 推進委員会の今年度の進め方

### 1. 狼委員からの説明

(資料) A4×2枚

- ・平成23年度の全市コミュニティ推進委員会の進め方について(課題と体制)
- ・平成23年度全市コミュニティ推進委員会活動予定表(案)

2つのモデル地区を決めて、新川と流山が動き出しているので、

きちんとした形にしていくことが最大の宣伝となる。平成24年度も継続してもらおうということで委員会も行政も支援していく。平成31年度までに15小学校区が目標であり、平成24年度には、いくつか立ち上がってもらいたいので、設立支援ということ。協議会とはどういうことかという将来像をきちんとしていくこと、また、取り巻く環境としての広報、啓発、宣伝も必要である。

## 2. 今年度の進め方について

### (1) 地域まちづくり協議会の将来像の検討

- ・ 平成31年度時点でどんな形になっているのか。協議会はどんな姿でどんなことをやっているか、支援体制も含めて、まだまだ議論が必要である。
- ・ 5月6月で議論する。
- ・ 5月の梅谷委員の九州研修のヒアリングを発表してもらい参考にする。または、佐倉、柏等（近隣）のケースを参考にする。

### (2) 設立と支援

- ・ 残り13小学校区の中の5地域程度を重点地域として、担当を決めて進めるのか。
  - \*江戸川台小学校 . . . 染野委員・( )
  - \*東小学校・向小金小学校 . . . 野路委員・( )  
東部中の24自治会を2つに分離させるには、地区社協が2つあるのでそこを中心に分けることを考えている。その後それぞれの特徴は何かということは考えていかななくてはならない。
  - \*長崎小 . . . 河村委員・小泉委員  
第2コミュニティホーム等の関わりで、自治会連合、地区社協、行政との話の中で準備会を立ち上げようという話がでている。
  - \*小山小 . . . 野路委員・( )  
安心安全の協議会と、NPOからもやりたいという話が出ている。(デベロッパーやNPO)
- ・ 担当を決めて具体的に何をやっていくのか。モデルの時は手が挙がってから担当を決めたが、今回の重点地

区はまだ何も見えない中で何をやるのか。

- ・ 江戸川台については、こんなことをやったらどうかというメモを次回提示する。(染野委員)
- ・ 小学校区によってもアプローチの仕方が違うので、5月に個別に発表してもよいのではないかな。

### \* 地区社協とまちづくり協議会について

**高市委員の意見** \*高市委員は社会福祉協議会事務局長

社会福祉協議会としては、地区社協を支援していくことを考えているが、まちづくり協議会の事業をみると事業は重なっているが構成メンバーに地区社協は入っていない(新川のケース)。将来どういうことをやっていくのかということをはっきり認識していけないと2つの組織が同時に同じようなことを同一地区でやることになってしまうので、その辺をしっかりと認識していただきたい。

地区社協の推薦、地区社協の支援をする立場であるから、まちづくり協議会の地区担当は遠慮したい。

まちづくり協議会が事業でスタートし、いろいろな人が参加し、課題に取り組んでいこうということはわかるが、流山で何がなされているか、足元を見つめていただきたい。構成も民生委員から自治会から小学校から入っているので、そういうことをおいておいてどう進めていくのかということも議論していただきたい。

社会福祉協議会と地区社協とは違う組織なので、地区社協と委員会との話し合いの場をもっていただきたい。将来的に、地区社協が協議会に吸収されるのか、それぞれに行動していくのか、その辺の将来像を定めて話をしていただきたい。将来像をみつめながらお互いに共通認識をもたなくてはならない。

地区社協の代表者の会議でもまちづくり協議会の話がでており、この辺の関係がはっきりしていなかったなので、地区社協は今の事業を継続していくし、社協としても助成していく。地区社協の中でもまちづくり協議会のあり方について釈然としないところがあるので、協議会としてはっきりさせていただきたいという

ことである。

#### 委員からの説明

地区社協も自治会も存続するが、地域の中にまちづくり協議会がある。組織としては別の組織であるが、地区社協の中にも、協議会の1組織になってもいいというところもあり、地区社協によってさまざまである。これは自治会についても同様で、委員はそこを説明して歩いている。それぞれの自治会、地区社協によって、意見はいろいろなので、何とか調和をとってやっていきたい。これまで議論を重ねて、規則等が出来上がっていることをご理解していただきたい。

まちづくり協議会の中心は、自治会連合、社協、NPOや市民団体となるが、社協がカギとなる。地区社協の会長、副会長も説明会に来ている人もいるが、今ひとつ分からないということがある。高市委員にはまちづくり協議会について十分理解していただいて、社協として協議会に入ることが社協の力にもなることを、説明して引っ張ってほしい。まちづくり協議会を立ち上げるための重要なポジションである社協をこの中に入れていただけるように尽力いただきたい。それこそが事務局から来ていただいている重要な役目だと思う。

#### 小泉委員からの意見 \*小泉委員は長崎地区の地区社協の副会長

地区社協だけではできないことがある。いきいきサロンをやっても限られており、そこから発展させて、本当に高齢者が集える場所、子どもたちが集える場所、世代間交流をする場所、そういう場をつくることためには、地域の人たちが集まって、何かしないとできない。これは地区社協ではある枠の中でしかできないので、そういうことをやりたいと思っている。また、高齢者生きがい推進課で取り組んでいる「ふれあいの家」があるが、これも地域でやらずに個人個人でやっていたら、なかなか高齢者生きがい推進課で求めるようなものには発展していかないのでは、自治

会やいろいろな地域の方が、どういうふうにしたらよいかということをお話し合っていく場が必要である。学童保育も別に作られているが、地域の中にもってきて、学校の近くにつくるとかも考えなくてはならない。すべてばらばらで動いていくということではなくて、子ども家庭課の育児のサポーターも一緒に考えて、全部のまちづくりにもっていくかないと小さなもので終わってしまう。本当に全体を広く考えて、その地域の住人がよく生活していくにはどんなふうにしたらよいかということをお考え、予算ももっとたくさん出で、優先されることが何かを地域の中で話し合っ、やっいてけるのかなというのが最初の考えだった。

### (3) 重要資料の作成担当者の指名による作成

- ・ Q & A集の改訂をしてリーフレットを作成する。
- ・ Q & A改訂担当 : 野路委員・染野委員・狼副委員長・
- ・ リーフレット担当 : 染野委員・野路委員

※梅谷委員のヒアリング報告を参考にしながら、将来像について考え、Q & A改訂やリーフレット作成に反映させる。Q & Aの改訂を踏まえ、リーフレット作成をする。

### (4) その他

#### ①全市対象リーダー研修会の開催（11月・12月）

- ・ 21年度・22年度は江戸川大学でファシリテーション講座を開催。今年度も予算あり。

※担当：梅谷委員

#### ②協議会シンポジウム

- \*昨年度は10月23日に関谷先生の講演やパネルディスカッションを行った。
- ・ 中間報告としてのシンポジウムは反対である。反対者の多い自治会に途中でさらけ出すのは危惧がある。
- ・ シンポジウムは委員会としてやるのではないか。
- ・ シンポジウムについては開催するにあたっては、コミ



コミュニティ課と十分連携をとって行う。

※12月を目標に開催の方向で検討したい。

③春季（第1回）自治会長会議

- ・ コミュニティ課主催。ここで説明があるかどうか。
- ・ 協議会と自治会は別なので、自治会長会議では今年は2つのモデルが動き出したことの報告でよいのではないか。
- ・ モデルがどう動いているかを含めた報告も、いろいろなところに示すのであればよいが、コミュニティ課の自治会長会議に乗っかる形には抵抗がある。
- ・ 小学校区ごとの懇談はやめてほしい。
- ・ 場は大切なので、そういう場はあったほうがよい。

※コミュニティ課に任せる。

④秋季（第2回）自治会長会議

- ・ 第2回自治会長会議フォーラムをやるか否か。

※秋の自治会長会議はなしとする。

**【コミュニティ課からの説明】**

5月21日（土）に自治会長会議実施予定。市長からの市政報告が中心で、震災関係の報告、まちづくり協議会のモデルの報告がある。残り時間で、小学校区を目安に自治会長にグループに分かれてもらって、近隣の自治会長同士で、自治会として困っていることはないか懇談してもらう予定。

6月に啓発としてまちづくり協議会についての意見交換会開催予定。協議会に反対する自治会があったので、それを踏まえて地域との意見交換会を地区別に行う予定でいる。これはまちづくり協議会に関心のある人全般対象となる。昨秋での予定だったため4地区を想定している。

1 2月にシンポジウム開催。これは次年度に向けての応募を兼ねての事例発表会としてのシンポジウムと予定している。

\* コミュニティ課からの説明にあった6月の地区ごとの説明会について

- ・ 6月は時期的に早い。
- ・ 重点地区があり、担当者がシナリオをもっているのをそれを聴いてからにしてほしい。
- ・ 6月の説明会については、行政と委員会が議論をして決めていく。

※地域まちづくり協議会の設立等支援の考え方次第となってくるので、議論をしてから決める。

⑤平成24年度協議会公募（モデルではない）

\* 昨年は12月1日に『広報ながれやま』、12月11日・18日に説明会をしたが、12月21日から1月31日までが公募期間ということで短すぎるという批判が多かったことを踏まえ、10月1日くらいから公募するのか、公募期間中に説明会をするかどうか、応募期間を長期にするのか等の議論が必要。

- ・ これから支援していこうとしている重点地区が5地区ほどあるが、その中から決めていくのはいけないのか。
- ・ 立ち上げるために支援をして、まもなく形になるかという時に公募だといわれるとどうかと心配している。
- ・ 建前は公募ではないのか。
- ・ 協議会そのものは公募でなくてもよいが、補助金を申請する事業については公募である。その時の条件としてまちづくり協議会の形になっていないものについては、補助金は出せないという条件がつけばよい。

- ・ 同一小学校区内で協議会が複数出た場合はどうするか。  
→まちづくり協議会の認定については、手続きはコミュニティ課であっても、推進委員会を通すということ。
- ・ 協議会は公募ではなく集めて、予算の時だけ審査して、公募方式をとるというのはよくないのではないか。やはり、モデルと同じ形で協議会として公募して審査をして、その中の事業に対して予算をつけていったほうがよい。
- ・ 協議会に認められるところには予算がつく、予算がつくところは協議会なのだというほうがすっきりする。
- ・ モデルを2地区立ち上げたが、今年度はいくつ立ち上げるのか。1地区だという話もあるが、モデルより少ないのはおかしい。少なくとも2地区は立ち上げるべきだが、応募が多いというのであれば、その数を増やすことも視野にいれるべきである。
- ・ 市の体力の問題も絡んでくるので、これからよく話し合ったほうがよい。
- ・ 補助金に関する予算について、どのくらいのタイミングでわかるのか。→9月

#### 【コミュニティ課からの説明】

モデルはパイロット的な役割を果たさなくてはならず公募とし、成功のための支援をしていかななくてはならないが、これからは特に公募に限定しなくてもいいのではないか。あくまでもモデル事業の公募ということだったので、協議会は公募でなくてもよいが、事業については公募で、プレゼンしてもらって審査をしなくてはならない。A地区、B地区、C地区で協議会ができて、事業をするとすると、それは公募になる。事業として成り立つのかということがあるので、プレゼンをしてもらって審査する。

※公募にするかどうかは次回議論する。

\*タイムスケジュールについて

(1) 本会議・勉強会について

本会議は毎月第3木曜日午後2時開始。必要に応じて勉強会を開催。部会制は現時点ではまだ早いのではないか。

(2) ⇒が実施予定月として、議論◎、報告○で表示している。

#### IV. 今年度の補助金申請について

補助金要綱については、協議会には送付済。

推進委員にも配布する。

補助金の申請は、4月28日(木)まで。現時点ではまだ申請は出ていない。申請後、補助金の交付は連休明け、5月中旬頃を予定している。

#### V. 次回日程および課題

5月19日(木) 午後2時から

(6月以降については再検討。できれば関谷委員の出席が望ましい)

##### 課 題

- ・モデル地区の状況報告
- ・まちづくり協議会の将来像について
- ・まちづくり協議会の設立支援の考え方を議論、確認したうえで、6月の地区説明会についての検討をする。
- ・まちづくり協議会の募集についての検討。
- ・梅谷委員からのヒアリング報告
- ・今後こんなことをやってアプローチしていくことの提示  
(江戸川台小学校：染野委員)
- ・今後の話をしながら、担当が決まっていないところを随時決めていく。

## 【第9回のまとめ】

### 1. 担当者について

#### (1) 重点地区

江戸川台小 : 染野委員・狼副委員長

東小・向小金小 : 野路委員・

長崎小 : 河村委員・小泉委員

小山小 : 野路委員・

#### (2) リーダー研修 : 梅谷委員

#### (3) Q & A改訂 : 野路委員・染野委員・狼副委員長 リーフレット作成 : 染野委員・野路委員

\*梅谷委員のヒアリング結果等参考にしながらすすめていく。

### 2. 行事等について

(1) 春季自治会長会議はコミュニティ課による。

(2) 秋季自治会長会議はなし。

(3) まちづくり協議会シンポジウムは、12月を目標に開催  
の方向で検討する。

(4) 地区説明会については検討が必要。

### 3. 課題等

(1) まちづくり協議会の将来像の検討

(2) 設立支援についての考え方を議論、確認し、まちづく  
り協議会の募集についての検討

(3) 梅谷委員の九州ヒアリングの発表

(以 上)